

産業社会と企業⑬～⑭ 市場経済と国際関係：南北問題と世界平和

【テーマ】

- ①市場経済の拡大とともに世界的な格差は拡大。なぜか？
- ②市場経済の拡大は「戦争と平和」にどのような影響を及ぼしたのか？

【1】資本主義世界経済の誕生

- (1) 多極的なシステムから一極的なシステムへ

- (2) 資本主義世界経済の特徴

- (3) イギリスのインド支配

*工業製品市場、食糧・原料供給地としての
インド開発

【2】資本主義世界経済の内部抗争：帝国主義の時代

- (1) 19世紀第4・四半期の大変化

- (2) 大変化の社会経済的背景

(3) 帝国主義の階層性とその
結末

『全集』第二卷、二九八頁。

『出典』レーニン『帝国主義論』

	本 国		植 民 地				合 計	
	1914		1876		1914		1914	
	面積	人口	面積	人口	面積	人口	面積	人口
イギリス	0.3	46.5	22.5	251.9	33.5	393.5	33.8	440.0
フランス	0.5	39.6	0.9	6.0	10.6	55.5	11.1	95.1
ロシア	5.4	136.2	17.0	15.9	17.4	33.2	22.8	169.4
ドイツ	0.5	64.9	—	—	2.9	12.3	3.4	77.2
イタリア	0.3	35.2	—	—	1.5	1.4	1.8	36.6
ベルギー	0.03	7.5	—	—	2.4	15.0	2.4	22.5
アメリカ	9.4	97.0	—	—	0.3	9.7	9.7	106.7
日 本	0.4	53.0	—	—	0.3	19.2	0.7	72.2

(単位：100万km²，100万人)

●列強の植民地領有の不均衡

【3】 パックス・アメリカーナ：現代帝国主義

(1) 第二次大戦後の構造変動

(2) 米国の世界戦略

(3) 現代の南北問題：多国籍アグリビジネス

【4】 おわりに：アメリカの衰退とTPP（環太平洋パートナーシップ協定）

中国はアメリカを追い抜くか？ (%)

アメリカ 日本

追い抜く
追い抜かない

PEW調査(2011)

※関連文献

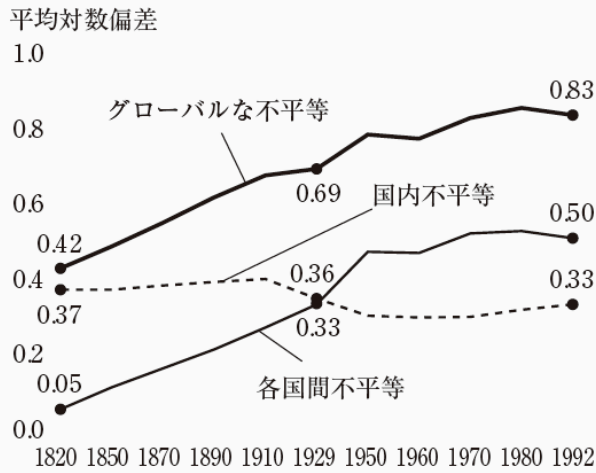
- ①木谷勤『帝国主義と世界の一体化』山川出版社（1997）
 - ・資本主義世界経済の成立、そして帝国主義の形成とともに人類の生活はどう変わったのか？ 小冊子ながら多面的に論じている。
- ②吉岡昭彦『インドとイギリス』岩波新書（1975）
 - ・イギリスのインド支配の内実・影響を多面的に論じた古典
- ③レーニン『帝国主義論』光文社古典新訳文庫（2006）
 - ・読みやすい新訳。解説はレーニンの革命戦略との関係やその誤りを議論。

- ④渡辺治『現代日本の帝国主義化』大月書店（1996）
 - ・パックス・アメリカナの盛衰と戦後日本の政治経済構造について、その関連を追究したもの。近年の自衛隊国際派兵や改憲論の盛り上がりの背景には日本経済のグローバル化があると論じられている。
- ⑤酒井啓子『イラクとアメリカ』岩波新書（2002）
 - ・中東情勢を論じるには欧米の世界（資源）戦略に注目することが不可欠である。本書はフセイン政権成立の背景にアメリカが大きな役割を果たしていたことを教えてくれる。

- ⑥鶴見良行『バナナと日本人』岩波新書（1982）
- ⑦辻村英之『おいしいコーヒーの経済論』太田出版（2009）
 - ・身近な食材を事例に、南北問題を具体的に議論した一冊。

- ⑧孫崎享『戦後史の正体』創元社（2012）
- ⑨白井聡『永続敗戦論』太田出版（2013）
 - ・⑧は「米国からの圧力」という観点から整理した政治史。⑨は戦後日本の核心を「アジアへの敗北の否認と米国への盲従」と説き、それがもう破綻に瀕していると主張する。いずれも気鋭の著者が読者を挑発する作品。

図3 グローバル不平等・各国間不平等・国内不平等の長期的推移



(出典) 世界銀行 (2006)、p.68。

表1 主な多国籍アグリビジネス (2005年)

産業部門	主要企業(国籍、売上高:億ドル)	備考
農業	Bayer CropSciences(ドイツ、69.6) Syngenta(スイス、63.1) BASF(ドイツ、41.2) Dow AgroSciences(米国、33.6) Monsanto(米国、30.4) DuPont(米国、23.0)	各社年次報告書 農業部門のみ 参考:住友化学(12.9)、アリストア(9.0)
種子	Monsanto(米国、32.5) Pioneer/DuPont(米国、27.5) Syngenta(スイス、18.0)	各社年次報告書 種子部門のみ 参考:サカタのタネ(4.2)、タキイ種苗(3.7)
化学肥料	Yara International(ノルウェー、73.0) Mosaic(米国、55.0) Bunge(米国/バミューダ、26.7)	各社年次報告書 肥料部門のみ
農業機械	John Deere(米国、194.0) CNH Global(オランダ、118.1) AGCO(米国、54.5)	各社年次報告書 農機部門のみ
農産物取引加工	Cargill(米国、710.7)* Archer Daniels Midland(米国、359.4) Bunge(米国/バミューダ、216.0)* Louis Dreyfus(オランダ等、200)* Dole Food Company(米国、58.7) Chiquita Brands Intl.(米国、39.0)	各社年次報告書等 食品部門も含むが、Bungeは肥料を除く Cargillは非公開のため、肥料(Mosaic)や金融部門を含む総売上高 Louis Dreyfusは非公開のため推計。無国籍に近いが、農産物取引持株会社はオランダ
飲食品製造	Nestlé(スイス、695.2) Kraft Foods/Altria(米国、341.1) PepsiCo(米国、325.6) Unilever(英国/オランダ、276.4)* Tyson Foods(米国、260.1) Coca-Cola Company(米国、231.0) Sara Lee(米国、192.5) Mars, Inc.(米国、180.0)* Groupe Danone(フランス、152.5) ConAgra(米国、145.7)	各社年次報告書等 Unileverは日用品部門を除く Mars, Inc.は非公開のため推計 アルコール主体の企業(米Anheuser-Busch、英Diageo、英SABMiller)は除く 参考:日本ハム(79.9)、味の素(65.5)、マルハ(62.6)、明治乳業(54.2)、山崎製パン(53.5)、森永乳業(45.9)、伊藤ハム(42.5)
食品小売	Wal-Mart(米国、1,283.5) Carrefour(フランス、677.1) Ahold(オランダ、542.5) Tesco(英国、460.4) Kroger(米国、395.0) Rewe(ドイツ、385.1) Schwarz Group(ドイツ、349.0) Aldi(ドイツ、343.3)	Planet Retail 2006 食料雑貨(grocery)部門のみ 参考:イオングループ(総合小売事業部門326.6)、セブン&アイ(同296.0)
フードサービス	McDonald's(米国、542.8) Yum! Brands(米国、316.4) Compass Group(英国、230.4) Wendy's(米国、127.6) Burger King(英国、115.9) Sodexo Alliance(フランス、112.0)	Planet Retail 2006 フランチャイズ等も含む全売上高